

長崎でのあゆみと更なる発展に向けて



三菱電機株式会社 長崎製作所

役員理事 所長

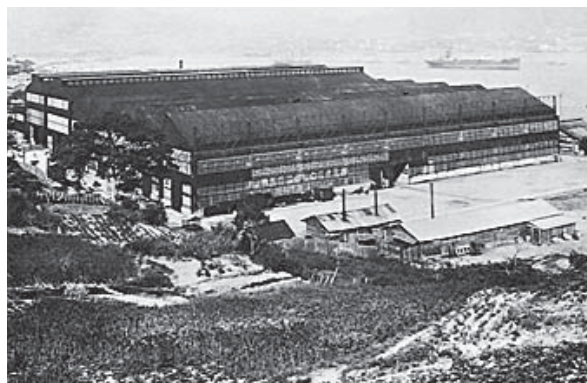
おか むら のぶ ゆき
岡 村 信 行

1977年 三菱電機株式会社入社
 2000年 同 電力・産業システム製作所 制御盤製造部長
 2003年 同 本社 社会インフラ技術部長
 2006年 同 長崎製作所 所長
 2008年 同 長崎製作所 役員理事 所長

1. 三菱電機長崎製作所のあゆみ

当所は、1923年に三菱造船(株) (三菱重工株式会社様の前身) 神戸造船所の電気機械部門を母体に設立されましたが、三菱グループの電機事業としては、この長崎の地で始まったとされています。1891年に三菱造船(株)の電気係が設置され、1897年に飽之浦発電所が竣工されました。1898年に飽之浦発電所に電機工場が設けられ、この年常陸丸が竣工、照明に白熱灯を使った国内初の船舶電化となりました。これが三菱グループの電機事業の始まりです。

大正時代に入って、動力が次第に電化され始めると三菱合資会社(三菱グループの前身)は電機産業が国家的重要性を持つようになると予測し、本格的進出の必要性を感じて、電機会社設立の検討を始め、1923年にまずは、神戸・名古屋に会社(拠点)を設立し、同年に長崎の地においても三菱造船(株)長崎造船所の電機工場を分離するかたちで発足しました。



長崎製作所誕生 (1924年)

当初は、三菱電機(株)神戸製作所長崎工場として発足、翌1924年三菱電機(株)長崎製作所として独立し、丸尾工場で電動機・発電機事業を中心に制御機器・船舶用電機品・産業機器分野へ拡大、規模の増大に伴い、1969年には時津中形電動機工場が竣工し(現在の時津工場のスタート)、丸尾地区・時津地区の2工場体制で重電機器から社会システムまでの幅広い製品を手掛け、当社の成長を支えてきました。

その後、重電・映像・冷熱という事業の特性に応じた機動的な体制にするために、1996年に3つの事業本部別組織に再編、翌1997年

に重電事業分野を神戸地区と統合し、広域運営体制に移行しました。

引き続き、1999年には株式会社東芝との大容量電動機製造事業での合弁会社設立（その後2003年に販売部門・パワーエレクトロニクス製造部門も含め東芝三菱電機産業システム株式会社（略称TMEIC（ティーマイク））へ改編、2000年には日本電気株式会社とのディスプレイモニタ事業での合弁会社設立（その後2003年に事業撤退）と電機業界の国際的な再編統合の荒波の中で生き残りを求め度重なる組織変更を繰り返してきました。

組織運営の効率化を追求した広域運営体制でしたが、一方で地域の一体運営が弱体化する等の弊害も指摘される中で、長崎の地における、将来にわたっての当社事業の磐石な事業強化を図るために2006年4月より再度長崎製作所を再興し、機動的な施策が立案・実行できるような体制に改めました。これまで幾多の紆余曲折はありましたが、私たち長崎製作所は三菱電機事業の発祥の地で80年以上、事業を続けてきた歴史を誇る伝統ある事業所であると同時に、当社では最も新しい製作所



管 理 セ ン タ ー

組織となっています。

2. 担当事業のご紹介

以前の中心事業であった電動機・回転機事業、パワーエレクトロニクス事業等をTMEIC社へ事業移管したこともあり、現在当所は、施設環境システム事業、大型映像情報システム事業、大型冷熱システム事業、車両用空調システム事業の4つの事業を柱として時津地区で事業運営を行なっています。

1つ目の施設環境システム事業は、非常用発電機等の電源システムをメインに環境・リサイクルシステム、駅舎管理システム等幅広い製品を担当しています。比較的新しい事業としては、乗客の列車への乗降の安全性を確保するため、新幹線や地下鉄のホームに設置されている可動ホーム柵システムや海水をシャーベット状にして魚介類を保存するシャーベットアイス製造システム等にも取り組んでいます。



シャーベットアイス製造システム

2つ目の、大型映像情報システム事業は、当所の製品名「オーロラビジョン」が大型映像表示装置の代名詞となるなど、国内でトッ



オーロラビジョン

プシエを維持しており、海外へも大きく拡大している事業です。1980年に米国のドジャース球場に世界初のフルカラースクリーン「オーロラビジョン」を納入して以来、今では東京ドームやJRA東京競馬場（世界最大の映像表示装置としてギネスブック登録）など1300面以上の製品を納入しています。最近の納入事例では、米大リーグNYヤンキースのホームスタジアムのメインボードや米国NFL（全米アメリカンフットボールリーグ）ダラスカウボーイズ向けのオーロラビジョンがあります。これは新スタジアムの天井（グラウンドの上空27m）から4面の巨大なオーロラビジョンを吊り下げたもので、そのうちのセンターハングスクリーンは世界最大のフルハイビジョン対応の映像スクリーンとしてギネスブックに登録されています。あわせて、観客席の最上段にはスタジアムをほぼ一周する帯状の映像表示装置のリボンボード（オーロラリボン）も設置しています。また、140インチの大画面でありながらも奥行15cmの高輝度・薄型大画面を実現したLEDオーロラビジョン「Resolia（レゾリア）」やHD（ハイビジョン映像）配信システム

「MEDIAWAY」といった製品も展開しております。

3つ目は、大型冷熱システム事業です。大規模のビル空調システムや食品製造業向けに-50度の極低温環境を作り出す低温機器などの産業用冷却・大型空調機器を担当しています。2007年に市場投入した大型チラーは業界最高効率の性能を誇り、多くのお客様からご好評を頂いており、受注も好調に推移しています。2008年からは更なる高効率を実現した空冷ヒートポンプチラー（コンパクトキューブシリーズ）等を投入し、規模の拡大を図っているところであります。また、冷熱システム機器の応用システムとして、飛行場に駐機している航空機内を冷暖房する「駐機冷却装置」や道路の融雪用の冷熱機器といったものもあります。



コンパクトキューブ

4つ目は、（鉄道）車両用空調システム事業です。現在、当所の約4割の売上高を占める代表事業であり、国内の新幹線を含む鉄道車両全体の約70%のシェアを誇っております。2007年夏より運行が開始されましたN700系

新幹線や、身近なところだと、九州旅客鉄道株式会社様の特急列車「白いかもめ」にも当社の空調装置が搭載されています。また、海外でもニューヨーク地下鉄や上海の近郊電車などにも採用され、グローバルトップの位置づけにあります。現在、環境にやさしい交通手段として、鉄道が注目されており、海外においても欧州・北米・中国といった市場の拡大が見込まれています。これをビジネスチャンスとしてとらえ、積極的に事業展開を図っていきたいと考えています。また、空調システムとは少し違いますが、車両用ブレーキ用空気圧縮装置といった応用製品も手がけています。

近年、世界的な環境保全意識の高まりにより、発電時に二酸化炭素（CO₂）を排出しない太陽光発電システムが注目されています。先般、長崎新聞でも大きく取上げていただきましたが、当所も現在、産業用や大規模発電用の太陽光発電システムで使用する大容量パワーコンディショナを日本メーカーとして初めて北米市場に投入する予定です。2010年10月に100KWタイプを2011年4月に250KWタイプを投入するとともに、国内市場へ順次展開を図り、5番目の事業の柱に育てていきたいと考えています。

3. 地域とのかかわり

誰もが笑顔で過ごせる社会を創るために、みんながやさしさをもって新しい社会に共存できるように、当社は「技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある人間社会の実現に貢献する」という企業理念に基づいた社会貢献活動を広く行っています。

長崎製作所においても全社方針に基づき、①募金活動、②物的貢献、③人的貢献の3つの観点から種々の活動を行っています。

1つ目の募金活動では、三菱電機SOCIO-ROOTS基金として、福祉施設などへ寄付を行っております。三菱電機SOCIO-ROOTS基金とは、社員の自発的な善意の募金に対し、会社が同額を拠出し、善意を倍にして寄付する「マッチングギフト制度」です。1991年より実施しており、当社の特徴的な活動として、広く社内に浸透しており、社員一人一人の思いやりがこの活動を支えています。

2つ目の物的貢献では、体育館やテニスコートの地域への開放を行っており、地域住民の多くの皆様に利用いただいています。

3つ目の人的貢献では、会社の活動として、



社会貢献活動

また、各種インフォーマルグループのボランティア活動としての清掃活動が代表的な活動となります。工場周辺はもちろんのこと、長崎市内、時津・長与町内の清掃活動、県立盲学校の草刈り清掃、また、稲佐国際墓地清掃活動や時津町「神崎花園」ボランティア活動への参加など多岐に亘り、継続的に取り組んでいます。

また、2007年より、毎年秋に時津工場の構内で「秋祭り」を開催し、社員・OB及びその家族のみならず、地域住民や取引先の皆様もご招待させていただいております。社員によるバンド演奏やダンス、模擬店の運営の他、キャラクターショーや人形劇・太鼓演奏といったアトラクション、最後には福引大会を実施し、当社製品をはじめ、種々の賞品の提供を行っております。お蔭様で、毎年約2500名の方にご来場いただき、盛大なイベントとなっていますが、開かれた工場を目指し、地域住民の皆様と触れ合う場として、今後も大切にしていきたいと思っています。

4. 事業運営の基本方針

最後になりますが、事業展開を行なっていくにあたり、長崎製作所所員には以下のことをお願いしています。(2006年4月長崎製作所発足式でお願いするとともに、折に触れて所員に訴えています。)

- (1) やるべきことを徹底してやる。成功するかどうかは徹底してやるかどうかにかっている。あきらめずに徹底した改革を進め

よう。

- (2) やるべきことを徹底して話し合おう。コミュニケーションを活発にし、意思の疎通を図り、長崎製作所の力を最大限に発揮しよう。
- (3) 我々のビジネスはお客様に直結した社会的影響の大きな事業である。遵法の徹底と安全並びに品質への取組み意識を改善しよう。

現在、世の中の経済情勢が非常に厳しい中、当社も苦戦を強いられていますが、当社の企業理念を踏まえ、企業の社会的責任を自覚し、よき市民、よき隣人として地域とともに歩み、地域の発展に貢献していきたいと思っておりますので、今後ともご支援・ご厚情のほどよろしくお願いいたします。